

PTA

やまがた

第28号

平成16年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 逸見良昭

山形市緑町1-9-30

山形県精神保健福祉センター内

TEL 023 (631) 0055 FAX 023 (635) 4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023 (631) 5533



県P連活動スローガン

「変革の時代、共に学び、共に築き 共に行動するPTAの創造」

— 子どもたちの永久の笑顔を目指して —

子どもたちのために何が出来なのかを考えよう



山形県PTA連合会会長
逸見良昭

教

教育改革の名の下に、完全学校週5日制・新学習指導要領が実施され二年が経過としております。この間新たに学力の低下問題、二学期制の導入、教育基本法、義務教育費国庫負担金制度の見直しが叫ばれております。その一方で、昨年夏以降に長崎県、沖縄県、福島県をはじめとする各地で子どもたちを巻き込んだ事件・事故が多発しており、本県においても登下校中の不審者による声かけ、連れ去り未遂事件などが起きております。これらは本当に残念であると同時に憤りをおぼえます。また、幼児虐待等、本来子どもを守るべき親自身による犯罪も起きています。これらは、決して許され

るものではありません。かけがえない子どもたちの命と未来を守るために、わたくしたちPTAとして心をひとつにして行動していかなければなりません。本年山形県PTA連合会として「変革の時代、共に学び、共に築き、共に行動するPTAの創造」子どもたちの永久の笑顔を目指して、スローガンの下、活動を行ってまいりました。また、各単位PTAにおいても深いご理解とご支援を賜り、様々な活動・取り組みを実践していただきましたことに感謝申し上げます。

さて、本年の活動を振り返りますと、数多くの研修会に参加し、また開催することが出来ました。八月には鳥取で第五十一回全国PTA研究大会が行われ、県内からも二十名にも及ぶ参加を得、未来を担う子どもたちの為の教育環境を検証し、今後のPTAの方向性を確認することが出来ました。また大会のスローガンでもある絆（人間同士の結びつきの実践）の重要性を再確認すると同時に今後の活動に生かしていきたいと

強く感じる大会でもありました。

また、九月には石巻において第三十五回東北ブロック研究大会開催されました。来年度本県が開催のこともあり一〇〇名近い参加者があり、本大会・分科会の運営にわたるまで熱心に参加・視察することが出来、来年に向けて新たなスタートの日でもあった気がします。大会を通して親と子の夢の共有の大切さ、必要性を感じる素晴らしい大会であったと思えます。

十月二十五日米沢の地において、第五十五回山形県PTA研修大会を「ともに語ろう！子どもたちの未来のために」の大会主題のもと県内各地より一、〇〇〇名にも及ぶ会員の参加を頂き開催することが出来ました。来年度本県で開催されます東北大会を見据え、五つの分科会を設けるなど、様々な新しい試みでの大会でしたが米沢大会実行委員会の方々のご協力により大変すばらしい大会であったと自負しております。特に深谷昌志先生による記念講演では、現状に即した話題で会場が熱気に満ち溢れておりました。

十一月には、県教育委員会と高等学校PTA連合会との合同教育懇談会が開催されました。「完全学校週5日制のもとでの家庭教育の充実」

「ならぬことはならぬ」の教育をテーマに、今薄れかけている親の姿勢、親子のかかわりについて話し合われました。ひとりの親という立場では、小・中・高等学校といった意識の差は全くなく、子どもを思う気持ちには同じであることを再確認すると共、相互の連携の必要性を感じることが出来ました。また、県教育委員会の方々より様々なご助言を頂き、有意義な懇談会となりました。

混沌とした時代の中、子どもたちの環境が大きく変わろうとしております。しかし、どんな時代でも子どもを思う親の気持ちは変わりません。私たち親として、PTAとしてかけがえない子どもたちのために、「だれかが何かをしてくれるのを求めるのではなく、子どもたちのために何が出来なのか」を考え、行動してまいりましょう。

最後になりましたが、本会運営に對しましてご理解とご支援を頂いております県教育委員会をはじめとする関係各位に感謝申し上げます。今後もお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第55回県PTA研修大会米沢大会を終えて



米沢大会実行委員長
五十嵐 彰

昨年度から発足した県大会米沢大会準備委員会にて検討いただいた内容を引継ぎ、今年六月から新たに実行委員会を組織し準備を進めて参りました。県内各地より参加していた多くの方に「おもてなしの心」でお迎えしよう、を合い言葉にし、「共に語ろう！子どもたちの未来のために」を大会主題として行われました第五十五回山形県PTA研修大会・米沢大会を無事終了する事ができました。

この大会では五つの分科会を設け、それぞれのテーマのもとパネラーとフロアが一体になりながら問題の糸口を見つけ日頃から考えている事、感じている事を語り合いながら一人一人が何をどのように取り組んでいったら良いか、実践事例

を交えながら話し合いました。答えはひとつではないのですが、それぞれが考え、そして一歩を踏み出すきっかけになったのではないのでしょうか。一人では何も出来ませんが、一人から始めなければ何も変わらないのです。しかし、一歩前進したから、何かを今やったから……。それで十分に良い結果が出るとは限りません。同じように、手を抜いても、勉強しなくても、怠惰に生きてもすぐに悪くなる事もあります。つまり、物事には必ずタイムラグ（時間差）があるといえます。だからこそ長いタイムラグの中で我々の努力が芽を出し実を結ぶように、一つ一つの小さな事にも気を配り大切にしていきたいと思いました。

私たちが、何か問題に突き当たった時にこそ、立ち止まらずに親として、人間として毅然とした態度で対応していきたいものです。そして同じ想いを持つ仲間と共に、家庭・地域・学校と連携しながらPTA活動を積極的に進めていきたいと思います。最後になりましたが、本大会の開催にあたり、ご支援とご指導を賜りました方々や実行委員の労いに対し感謝申し上げます。ありがとうございます。

第56回山形県PTA研修大会酒田飽海大会へようこそ

——ロマンあふれる酒田へ……こばえちゃ——



酒田・飽海大会準備委員長
佐藤勝彦

古い時代、人類が住み着いたのは潟のほとりや川岸、海辺であったらしく日本海沿岸の最上川はほとりに集落ができたのは旧石器時代と見られている。そんな土地に酒田はある。

昨年、酒田市制施行七十年を迎えました。酒田北港の整備により国際的な交易が広がり日本海沿岸国との貿易が発展し国際都市として歩んでおります。そんな酒田で、第五十六回山形県PTA連合会研修大会酒田飽海大会が開催されます。近年急激な社会の変化の中で子どもを取り巻く環境は大きく変化し、犯罪、非行、不登校、いじめなど憂慮すべき状況が続く、子どもたちの心のあり方が大きな社会問題になっております。このような状況にあつて

こそ、私たちは大人として、親として現実を見ずえ、子どもたちをしっかりと受け止める智慧と温かく包み込む優しさを持たなければなりません。酒田飽海大会では、そんな智慧と優しさを学ぶ機会にしていきたいものです。

こんな願いを抱きながら、私たちPTAは「家庭の教育力の回復をめざしつつ、学校・家庭・地域との連携・協力を一層推進させる」という基本方向に立ち、青少年の健全な育成のために主体的に活動していかねばなりません。

日頃から、PTA会員の皆様におかれましては、単位PTAにおける活動や地域社会での体験などを通じて得た、有意義な体験を広く県内PTAと一緒に意見交換しながら交流することで、更に新たなエネルギーを生み出すことにつながるのではないのでしょうか。

最後に、山形県の母なる川最上川が、一つになって日本海にそそぎます。私たちPTAも、県内各地で活躍されておられる多くの皆様と話し合い、学び合い一つになってこれからの子育てに邁進できることを期待したいと思っております。最上川と日本海の出会う街、酒田へ是非きてください。お待ちしております。

「ならぬことは ならぬ」 の家庭教育の充実

山形県教育委員会との合同教育懇親会報告

平成15年11月20日(木) ホテルキャッスルにて、今年で3回目を迎える山形県高等学校PTA連合会と合同の山形県教育委員会との教育懇談会が開催された。県教育委員会(県教委)は伊藤教育次長を始めとして7名、山形県PTA連合会(県P連)20名、県PTA母親委員会5名、山形県高等学校PTA連合会(高P連)13名の計45名の参加を得、盛大に開催された。



県P連側の話題提供は「家庭教育は自分教育」と題し、西置賜地区PTA連絡協議会会長の間宮尚江さんが行った。母親の過干渉が家庭

命の尊さを、強く訴え子どもに伝えなければならぬと感じます。最後に、県母親委員会活動にご理解とご協力をいただいたことに、心より感謝申し上げます。今後とも、山形県全体の子どものたちを見守り育てていくために、各都市の子どもの様子等情報交換し、ネットワークを密にして活動していきたいと思えますのでより一層のご支援をお願いいたします。

『活動報告』
第一回母親委員会 六月十日
。正副委員長選出
。活動計画及び情報交換
第二回母親委員会 九月十九日
。日本PTA、東北ブロック研究大会報告及び情報交換
第三回母親委員会 十一月二十日
。県母親委員会だより」作成案
。県PTA研修大会報告及び情報交換
。県教育委員会、県高等学校PTA連合会との合同教育懇談会参加
第四回母親委員会
平成十六年二月十日
。県母親委員会だより」作成
。今年度反省と来年度に向けて

『教育改革が進む中、家庭教育の大切さが重要視され、今後は益々小中高一貫教育が必要とされる』という逸見会長の挨拶と『この会が、家庭教育の大切さを見直すこの時期に開催されるのは大変良い機会であり、是非教育委員会からもご教授願いたい』という野川高P連会長の挨拶を頂戴した。また、県教委伊藤教育次長からは、『自分を愛し他人を愛し命を大切にすることが本場に大切な課題である。第五次教育振興計画のキーワードは「命」である。その推進役が、正に家庭人・地域人たるPTAである。小中高の枠を越えPTA活動の縦の繋がりをもち一貫した地域教育の取り組みを教育行政の施策に活かしていきたい』との言葉を頂戴した。その後の出席者自己紹介は、小中高の子供を持つ方が多く、既に小中高の一貫教育は成されていると感じる一コマであった。

話題提供

教育の大きな壁になっている。先ずは親が子離れする事が必要。また家庭の姿勢が見える様をしたいという考えや、子どもたちに家事を担わせ生きる知恵を学ばせる。そして親自身が地域人として自分が変われば子どもが変わる」という意識を持って、家庭教育を進めていくというご自分の家庭教育を例にした保護者としての哲学がみえるプレゼンを行った。高P連側の話題提供は、「校則遵守の観点に立った制服規程等の見直し」と題し、村山農業高校PTA会長の尾崎正義さんが行った。同校では、男子生徒のワイシャツの裾出しや、女子生徒の引きずるようなルーズソックスが目立ち始めた為、生活態度の安定と更なるグレードアップを目指し、裾出しワイシャツとルーズソックスの絶滅を計った事例であった。最初に全校生と全保護者に対し服装についてのアンケートを取り、その結果を基に教職員と保護者の統一見解のもとで指導する事を決めた。ここで素晴らしいのは、校則改定に生徒の自主性を取り入れ検討を重ねていった点である。その結果、授業・部活・農業関係の研究にも成果が表れ学業意識の低下による退学も減ってきた。お二方の話題提供を踏まえ、「現状把握」「どこに課題があるのか?」「課題の解決」の三つの柱に沿って懇談を進めた。

オープンな意見交換

意見交換では、各人からそれぞれの経験と立場に立った積極的な発言が続いた。社会規範の低下という現実を解決する為には、家庭教育の大切さを見直す時期にきているという認識のもと父親の役割、母親の役割、学校の役割を考える必要性や、生活体験・自然体験の大切さといった提案がなされた。また、生きる力の育成という理念・理想追求と現実とのギャップが生じている現状の提案に対する課題追求に進んだ。最後に、県教委渡辺社会教育課指導主幹より、『子どもたちがおかれている状況から地域人たる大人社会を考えなくてはならない。子どもたちをみれば未来が分かる。子どもは未来からの留学生である。大人が小さな一歩を踏み出そう。その大人こそPTAである。』という講評を頂戴した。予定されていた時間を過ぎてても発言が止まらず、あつという間の二時間であった。今後は、この様な会での成果を踏まえ、次世代を担う子どもたちへの愛を伝える事が最も重要な事と考える。子育ては、ならぬことはならぬという確固たる家庭教育の信念を忘れず、自分自身も子供たちに教えられるが必死に行うものである。誰の為でもなく未来のために!

文責・県P連副会長 遠藤 正明

県PTA連合会 母親委員会の本年度の活動



県PTA母親委員長
佐藤 静子

今年度、県PTA母親委員会では「命の尊さ大切さ」というテーマを設け、子どもたちの心を育て生きる力を培うには、親がどう向き合っているかを伝えるべきか話し合ってきました。また、各都市においても、命というものに着眼点をおいた活動の実践へと広がりが見られ、自他の命を大切に生きていくことになったことに感謝申し上げます。

命の尊さを、強く訴え子どもに伝えなければならぬと感じます。最後に、県母親委員会活動にご理解とご協力をいただいたことに、心より感謝申し上げます。今後とも、山形県全体の子どものたちを見守り育てていくために、各都市の子どもの様子等情報交換し、ネットワークを密にして活動していきたいと思えますのでより一層のご支援をお願いいたします。

《活動報告》

- 第一回母親委員会 六月十日
 - 。正副委員長選出
 - 。活動計画及び情報交換
- 第二回母親委員会 九月十九日
 - 。日本PTA、東北ブロック研究大会報告及び情報交換
- 第三回母親委員会 十一月二十日
 - 。県母親委員会だより」作成案
 - 。県PTA研修大会報告及び情報交換
 - 。県教育委員会、県高等学校PTA連合会との合同教育懇談会参加
- 第四回母親委員会
 - 平成十六年二月十日
 - 。県母親委員会だより」作成
 - 。今年度反省と来年度に向けて

各地区の活動

- 山形市
 - 。活動テーマ「いのちの尊さ」
 - 。命を大切にすることを大きくむく
 - 。年三回の委員会
 - 。拡大母親委員会開催
 - 「マザーズネットワーク」発行
- 上山市
 - 。年二回の委員会開催
 - 。山形市の拡大母親委員会への訪問参加
 - 天童・東村山
 - 。年二回の委員会開催
 - 。母の集い参加
 - 。単P活動状況集発行
 - 西村山
 - 。年三回の学習会開催
 - 北村山
 - 。各市町村ごとの活動最上
 - 。年三回の委員会開催
 - 。地区全員研修会開催
 - 。地区委員会だより発行
 - 。単P活動報告書作成
- 米沢市
 - 。年三回の委員会開催
 - 。拡大母親委員会開催
 - 東置賜
 - 。地区PTA協議委員会での県P母親委員会の活動報告
 - 西置賜
 - 。年三回の委員会開催
 - 鶴岡市
 - 。年三回の委員会開催
- 酒田市
 - 。年二回の委員会開催
 - 。酒田市PTA連合研修大会分科会担当
 - 。母親委員会だより発行
 - 飽海
 - 。郡P理事会参加
 - 。一部地区において、料理講習会活動開始



。年三回の委員会開催
。映画上映会
。講演会開催
。母親委員会の交流会開催
東田川
。年一回の委員会開催
西田川
。年間テーマ「命の大切さを知る」
。食育について
。年四回の委員会開催
。町給食センター訪問
。町教育長と語る会開催
「かあちゃんから版」発行
酒田市

県民運動『大人が変われば子どもも変わる』



～地域ぐるみ子ども育成活動への取り組み その4～

地域と連携した活動報告

山形市立蔵王第一中学校PTA

本校は、山形市の南部に位置し、東は蔵王温泉に通ずる堀田地区、北は山形大学医学部から桜田までの広大な学区です。平成十五年度は、四百九十余名の生徒が在籍し文武両道にがんばっております。

本PTAでは、「全員参加のPTAをめざして」のスローガンのもとに、顔と顔、地域との連携を深めていくことをめざして活動しております。

組織は、専門部（総務・環境・保体・文化）、母親委員会、学年部で構成されており、それぞれ学習しながら知恵を出し、積極的な活動を行っております。特筆すべき点は、地域と連携した様々な取り組みを実施していることです。

本校では、毎年、運動会でロックソランを踊っています。本年度は、ハッピーも新調し大いに盛り上がりました。

また、学区内地区では、一昨年から小学校との連携のもとに、桜田東地区の盆踊り大会で地区の皆様がロックソランを披露しました。盆踊り大

会会場はあふれんばかりの熱気で盛り上がりました。盆踊り大会を成功させようと、町内会の皆様、地区PTA、中学部子ども会、そして有志の先生方と連携し練習時間も設けました。桜田東地区での発表当日、会場には威勢のよい生徒の声や響き渡り地区の皆様から大いに喜ばれました。

この盛り上がりや蔵王地区全体に広めようと、十一月十六日に開催された蔵王地区祭りでも披露し、地域の方々や生徒の一体感が生まれました。

蔵王地区には、伝統のお囃子やすばらしい伝承文化があります。それらを継承していくには、まず、児童生徒が地区行事に積極的に参加することが大切です。

地域文化を学び、地域の皆様の相互理解、交流を通じて子どもたちが心豊かな大人に成長します。急激に都市化が進む地区ですが、家庭・学校・地域で大切な児童・生徒を育てるために、地区の皆さんと連携し、今後のPTA活動をより充実させていきたいと考えています。

活動している大人が、「地域から期待されている小中学生」という趣旨の講話を聞かせて、地域に貢献する活動を積極的に推進するよう直接呼びかけました。「地域ごとのボランティア活動は大切である」と考えている児童が、昨年六六パーセント、今年八一パーセント、また、「前より地域行事に参加するようになった」児童が五三パーセントと、地域に対する意識が確実に高揚しています。

子育て環境最良地域

中山町立豊田小学校PTA

本校は中山町の西部に位置し、学校の屋上からは村山平野が一望出来ます。児童数百八十七名の規模校で平成十五年度は創立百二周年を迎えることが出来ました。

一、配達大作戦

豊田地区全体では約千戸の世帯数があり五つの地区（金沢、柳沢、土橋、岡、小塩）に分かれております。今日、小学生が被害を受ける事件が多発していますがこの豊田地区は地域の皆さんに子どもたちを守ってもらう方法が一番ということ、児童全員に担当の世帯を決め学校・PTAの連絡や案内物を全戸配布しております。地域の皆さんもそれを楽しみにしております。は「お菓子」や「果物」等をいただいたり来て「あいさつ運動」と合わせて地域の皆さんと交流しております。

二、合同大作戦

年々児童数が減少傾向にありPTAの財源確保が難しい中、数年前より育成会と合同で資源回収を行い、その収益

を「PTA活性化基金」とし豊小カレンダールの作成や研修会等の資金にしております。

三、お祭り大作戦

「学校でお祭りをやろう」を合言葉に、やるのであれば地域を巻き込んだ方法でと、そう言った話をPTA総務委員会に提案したところ、始めは役員の方も戸惑いがあり会議に三時間もかかりましたが最後は皆さんの理解が得られ「豊田祭」が実現しました。

基本的に要請はせずに、自己責任を重視し、出来るだけ自由に屋台やイベント企画を募集したところ個人・団体・PTAのOB・消防団等が、たこ焼・金魚すくい・水ヨーヨー・焼きそば・木工教室・国文祭の流れでお香教室等のイベント参加があり快晴の秋空の下で満面の笑みをたたえた子どもたちの姿を見た時、この祭りの成功を実感しました。

今後は山形市との合併問題で不安な要素もありますが、一人一人が意識改革し学校を中心に子どもたちと一緒に活発に活動していきます。

地域の「目と心」を 実践する活動の展開

小国町立小国小学校PTA

本校は、町内各小中高校とともに小国町小中高一貫教育に取り組んで、三年になりました。『小中高生の主体性を大切にした地域行事への参加・参画のあり方』を重点として、地域の方々とともに取り組んだ活動について紹介します。

一、町民一斉清掃への参加

今までは、保護者を含め、地域の大人が行っていた『町民一斉清掃』に、小中高生も参加するようになりました。町民課や地域の方の理解を得る一方で、各家庭で、保護者が一緒に参加するよう声がけが行った結果、多くの児童生徒が参加しました。地域の大人が働く姿を目の当たりにして、「町をきれいにできた満足感」「ゴミを捨ててはいけない気持ちの高まり」「地域の人たちのすこさ等を実感した」などの感想を、児童が持たせることができました。

二、地区別合同集会において

各地域ごとに、小中高生が一同に集まっている場を活かして、地域のリーダーとして

活動している大人が、「地域から期待されている小中学生」という趣旨の講話を聞かせて、地域に貢献する活動を積極的に推進するよう直接呼びかけました。

「地域ごとのボランティア活動は大切である」と考えている児童が、昨年六六パーセント、今年八一パーセント、また、「前より地域行事に参加するようになった」児童が五三パーセントと、地域に対する意識が確実に高揚しています。

三、サマースポーツ大会への参加

地域の人と一緒に、たくさん参加児童から「自分たちが地域の方に必要とされている感じがした」「自分の地区の人と優勝目指して楽しく競技できてよかった」「思っていたよりもずっと楽しかった」などの感想を聞くことができました。

PTA全員団員が 親近感を覚く

真室川町立真室川中学校PTA

本校は、旧真室川中学校と旧安楽城中学校が合併し、今年ちょうど二十周年を迎えた歴史には比較的浅い中学校です。生徒数三〇三名は、鳥海山を背に恵まれた自然環境の中健やかに成長している。

組織は、専門部が体育、整備、広報、育成、教養五つの部と学年部で構成している。特に、今年が創立二十周年記念の年にあたり、全組織が記念行事に取り組んだ年となった。それは会員の一人が読んだ新聞記事、由紀さおりと安田祥子・手づくり学校コンサート開催への応募から始まった。東北で三校の中に見事当選し、八月二十七日二人の澄んだ歌声を生徒と会員が聞かせていただいた。全く記念行事として計画していなかったことだけに、全役員が心から感謝した。マンネリ化が進むPTA活動に一時の新风を吹き込んだと感じたところである。

本番の記念式典は、十一月八日在校生による歌や踊り、卒業生からは「二十年の思い出」と題して講演を頂き、記念に残るものとして生徒たちが「語り」を努めるビデオテープや会員によるパンフ作成並びに昼食会の開催など、正にPTAが一丸となった事業ではなかったと思っている。

由紀・安田さんのコンサートは二大学校行事の「合唱コンクール」で歌うことのはらしさを教えられ、又卒業生からは将来の夢と希望を論され真剣に聞き入る姿、中でも地域の方々から指導していただいた踊りは今も地域のイベントや福祉施設の慰問に活躍しているのである。

いずれのPTAでも親子作業や田畑を借りての収穫祭、伝承事業等、活動内容は殆んど変わらないものと思いますが、生徒の提案と先生の指導としてPTAの呼びかけで協力して頂いた同窓会員。二十歳を機に、まず大人同士が話し合い、子どもたちに関する正しい情報を得ることで平等の対話ができると考えている。

オンライン・ワンの教育を めざすPTA活動

山辺町立谷沢小・中学校PTA会長 稲村弘幸

と思います。

一、わらびっ子クラブ

JR山形駅から西へ約十七キロ、山辺町の西部山間地に位置し、戸数約二百四十の地区に作谷沢小・中学校はあります。小中併設のへき地一級校で、全児童生徒数四十一名、小学校は複式学級となっています。「湧水の里」として知られている豊かな自然環境の中で、一人ひとりの子どもを主人公にした個性を伸ばす特色ある活動に取り組んでいます。「飛び立とう！たくましく！オンライン・ワンの教育をめざして」という目標のもと、地域の子どもは地域で育てるという作谷沢ならではの取り組みが評価され、この度「優良PTA文部科学大臣表彰」をいただくことができました。

学校週5日制に伴い、母親委員を中心として、土日の過ごし方や子どもの受け皿及び、小中学生の交流の場を提供することを主旨として発足した活動です。月一回の土曜日を利用して公民館や学校の体育館を開放して、小学一年生から中学三年生の子どもが遊んだり勉強したり、昼ごはんを作って会食をするなどしています。

この活動は学校や地域の行事に生かされています。

二、田んぼの学校

平成十三年度に学校、地域行政が一体となってスタートさせた農業農村体験学習です。子どもたちが「湧水の里」作谷沢の豊かな自然を見つめ直すとともに、ふるさとを愛す

平成十三年度に学校、地域行政が一体となってスタートさせた農業農村体験学習です。子どもたちが「湧水の里」作谷沢の豊かな自然を見つめ直すとともに、ふるさとを愛す

る心や豊かな感性を育てていくことをねらいとしています。貴重な清流と水資源の大切さを確認する為に、カキツバタの植栽やイワナの養殖、放流をしました。水中の生き物や植物の観察を通じて恵まれた自然環境を実感することができるようにと、ピオトープため池を整備したり、地区民と一緒にホタル鑑賞会なども実施しました。又、水田放棄地を地域や行政の支援で水田として蘇えらせ、収穫した米で感謝祭を催しました。また、食糧不足で困っているマリ共和国に援助米として送ったりもしています。この様な稲作体験をすることにより子どもたちは、食と農に感謝する心を育んだのではないのでしょうか。

この活動を通じて学校と地

域の連携が図られ、地域の方々が学校に寄せる期待も膨らみ、更に協働体制が整ってきたように思います。

三、これからの学校を考える会

平成十一年度に「小規模特認校準備委員会」を母体として組織されました。過疎化や少子化が進んでいる中、学区を越えて本校に入学してもらえよう魅力ある地域づくりや、その実現に向けた取り組みなど、学校と地域が一体となり考えていく場になっています。今現在、この特認校制度を利用して入学してくる生徒や、田舎暮らしに憧れる家族が移り住んでいます。

四、ふれあい教室

「心の相談員」としてお願いしていました地区の方を、引き続き学校独自に委嘱した祖父母を中心に交流活動を行っています。農業体験学習の指導、昔の遊びや地域食材の料理法などを教えていただいています。

五、子育てグループ「湧々」

核家族や共働きの家庭の支援をしようと組織されました。

平成十五年度、酒田市立黒森小学校PTAは、栄えある「優良PTA文部科学大臣表彰」をいただくことができました。

この度の受賞は、これまでの関係諸機関の皆様のご指導があったからこそと、心より厚く御礼申し上げます。

現在、本校PTA会員世帯数は、五十九世帯、児童数が七十七名で、酒田市で最も小規模な学校です。

また、地域に二百七十年ほど前から延々と引き継がれている黒森歌舞伎の後継者育成と地域の活性化を目的として発足した少年歌舞伎と少年太鼓は、地域とPTAの連携のもと毎年五・六年生によって上演されており、その支援活動は、本PTAの特色ある活動のひとつとなっています。

本校PTAは、年々減少する会員数に合わせた組織の見直しを行いつつ「全員参加の自立したPTA」「地域の核となり未来への橋渡し役としてのPTA」の推進を課題として活動しております。

一、組織・運営上の取り組み

PTA会員世帯数の減少により、平成十四年度より専門部の環境整備部の廃止と地域から選出される生活指導部員の人数を半数にいたしました。それまで、環境整備部で行っていた事業の企画立案は運営委員会、事業は会員全員や地域との連携のもとに行い、会員の参画意識を高め「全員参加の、地域の核となるPTA」の推進めざして取り組んでいます。

(1) 全員参加によるPTA活動

親子花いっぱい活動

校地協賛有地の花壇に親子で花の苗を植えております。これまでは、PTA単独事業でしたが、平成十四年度からは黒森公民館・保育園との共催が実現し、地域連携事業としての第一歩を踏み出すことができました。

。プール監視協力

夏季休業中に、PTAでプールを学校から借り受けて子どもたちに開放しています。全会員を一班三、四人の班にし、一家庭一回ずつ監視当番を行っています。それに伴い、事前に救急蘇生法講習会を開催しておりますが、その出席率はほぼ百パーセントとなっています。

(2) 地域他団体との連携事業

黒森公民館との連携による「赤川新川ハゼつり会」校歌の歌詞にある「新赤川

未来への橋渡し役めざして 活動するPTA

酒田市立黒森小学校PTA会長 佐藤昌保

二、伝統文化伝承のための活動

PTAの特別委員会として「黒森少年歌舞伎・少年太鼓支援委員会」を組織しています。

二月の公演当日の準備はもちろん、事前練習時の世話から地域の指導者や公民館、歌

児童サークル、延長保育、学童保育の機能を備えています。学校と保育所の終了後に、公民館を利用して親が当番制で保育を行っています。

以上のように保護者、地域、学校が連携し、今後益々、魅力ある地域づくりに取り組んでいくことが重要なのではないかと思います。さまざまな特色ある活動を通じて、次代を担う子どもたちが大きく羽ばたく為、夢と希望を忘れず、心優しく逞しく成長することを願いながら、共に生きる力を育んでいきたいと思



舞伎実行委員会との連絡調整や衣裳の準備・収納までを支援委員長を中心に自主的に行っています。その活動が、将来「歌舞伎の黒森」を担っていく子どもたちの未来への橋渡しの存在となればと願っています。

三、今後の課題

平成十五年度は、活動テーマを「行動・感動・感謝（地域に根ざした体験を生かして活動するPTAの輪）」とし、地域の良さを生かした親子体験の機会を多くしていきたいと考えています。これまでの活動の成果を生かしながら、全員参加で地域ぐるみでの子育てめざして活動するPTAでありたいと願っております。

日本PTA創立五十五周年式典において、日本PTA協議会長表彰をいただきましたことは誠に榮譽なことでありまして、これもPTA会員の協力と、先輩PTA会員であります地域のの方々の築いてきた活動のお陰と、心から感謝いたしたいと思います。また、会を代表いたしました表彰式に出席する機会を得ましたことは、大変光栄なことと思っております。

表彰式は秋篠宮・同妃両殿下をお迎えして、多くの来賓の方々と、受賞者、その関係者として一五〇〇名程という大変盛大な式典であり、PTAという組織の大きさを改めて実感させられるものでした。

式典に引き続き、御手洗文部科学事務次官のご講演がありました。その中で、子どもは学校だけでは育てられない、家庭こそが教育の原点である、その学校と家庭を結びつけるのがPTAの役割なのだというお話がありました。道徳教育と学力教育とは一体のものであり、信頼できる大人が子どもに伝えてやることこそが

心の教育なのだ、というお話が、大変印象深く心に残っております。

このように教育について行政のトップとして携わっている方のお話を聞くことができたというのは、大変有意義なことでしたが、残念なことは、式典が終わると多くの方々が退席してしまつたことです。今の大人社会の現実、PTAの

日本PTA全国協議会長表彰

共に学び合う

PTA活動をめざして

余目町立第一小学校PTA会長 小野寺 姫

実態を見たようで、とても残念な気がしました。最近問題とされている青少年犯罪をみましても、そこに関っているのは大人です。私たちは子どもたちから信頼される大人であるために努力しているのだろうか、子どもたちに道徳教育をきちんと伝えていくのだろうか、反省させられる気がしました。

理科の授業で、絶滅危惧種に指定されているメダカが学区の農業用水路に多く生息しているという発見からでした。ちようど圃場整備工事が予定されておりました。そこはコンクリートの用水路になることになつていたので、何とかしようという事で子どもたちの学習が続けられました。解決策は見えないままとありえず

に地域ぐるみのもとても楽しい活動でした。三年間に何度かこの救出、引越し活動が継続されてとうとう今年度には、学区内に二つもの立派な保全池が作られました。これには県や町、そして地域のみなさんのご尽力があったことは言うまでもありません。この活動を通して、みんなが同じ気持ちで取り組



めば実を結ぶということを学びました。その思いと、郷土の誇れる自然を守り伝えていくためにも、親子での環境活動を続けていきます。今後に向けて――

私たちが願っているのは子ども達の幸福な成長です。PTA会員ひとりひとりが子ども達の安全と幸せを願う気持ちを忘れなければ、おのずと活動も充実してくると思います。今回の受賞を機に、家庭の役割をもう一度考え直し、互いに学び合い、みんなの力で子どもたちを守り育てていきたいものです。

日本PTA全国協議会主催の創立五十五周年記念式典が、十一月十九日東京のホテルニューオータニで秋篠宮殿下のご臨席のもと盛大に開催されました。その席上で、本校PTAが栄えある全国協議会長表彰を受賞いたしました。

会場は、記念の年と相まって全国各地から文部科学大臣賞と日本PTA会長賞の表彰を受ける団体と個人で、千五百名弱のそれこそ大賑わいでありました。

この榮譽は、多くの関係者のご指導の下、本校統合中として開校以来八年間の幾多の取り組み・実践、ご苦労にいただいたものと理解しております。開校二年前からPTA組織づくりに着手し、統合になる二校の関係者により準備会を何回となく開き、その当時それはそれは至極大変なご苦労があったと先輩諸氏から聞いておりました。そして、平成八年四月、新生川西二中が誕生し、教育関係者、地域の方々から大いなる希望と期待を寄せられたわけであり

もスムーズに進んだわけではなく、試行錯誤を繰り返して何回も検討を重ね、これまでも何回と規約の一部改正を行つてきました。

この辺で、本校PTA活動の特徴的なところを紹介いたします。全校生徒二百三十一名、会員数二百二十五名(内職員二十名)であり、活力あるPTA活動づくりのため次

す。具体的な活動として、①環境委員会による学年毎の親子作業(除草、雪囲い、ワックス塗りなど)、②地域懇談会の開催(四日間十三会場)、③PTA広報紙「若葉」の全戸配布、④全校生・全地区あがりの資源回収、⑤本校単位PTAでの健全育成推進大会の開催、⑥緑化委員会による校舎周辺樹木の保全育成、⑦

の受賞祝賀の宴を盛大に開催いたしました。皆様方に大変喜んでいただき、非常に盛り上がり、なつかしい当時のことに話題が集中し、「困難であったが勢いはあった。」「今考えれば無謀だったが会員より五千円も徴収させてもらった。」「統合中だが、初の卒業式は見事であった。」「苦労も今や思い出になつて

日本PTA全国協議会長表彰

全員で創る

我ら二中の文化と未来

川西町立第二中学校PTA会長 和田 照秋

の二つの基本方針を掲げています。一つは、生徒たちへのサポート意識向上と会員相互の親睦を深めることを目的に、多くの参加者が得られる工夫と自主性に富んだ活動を展開することです。二つ目は、生徒会活動・学校行事、さらに総合的な学習と連携をとりながら、生徒も保護者も地域活

教育講演会・ミニ研修会の開催、⑧校区内幼小中PTA連絡協議会の開催、⑨地域ポラントニア団体との共催による老人宅の除雪作業(全校生徒の半数参加)など、数多くの取り組みや実践を積み重ねてきました。

きた。」など次々と話しされた時間忘れて楽しい一夜を過ごしました。ところで現在は、開校時と異なる新たな課題に直面しています。それは、①役員の選考方法と時期(平成十四年には、三役の一般公募の実施)、②少子化等に対応した財源確保、③母親委員会の立ち上げ、④十周年以降の活動方針と展

望などあります。具体的に進んでいる内容もありますが、多くの方々の声を反映し、より良いものを目指してまいります。

今回の受賞を機会に、当面十周年に向けた活動方針等を検討重点化し、学校とPTAのさらなる発展飛躍を願い、連携と融和を大切にこれからも努力して参ります。

(タイトルは、校門脇の看板に掲げられているものです。)



☆平成15年度 第31回子どもの遊びと ☆ 生活災害事故防止ポスターコンクール審査結果

入賞誠にありがとうございます。今年の県内からの応募数は、272点でした。その中から慎重に審査した結果、下記のように入賞者が決定しました。来年度も奮って応募されるよう期待しています。

最優秀賞 7点

渡部 実佳 (最上町立月橋小学校1年)	さとう ひでき (真室川町立小又小学校2年)
樋渡 佳奈 (戸沢村立古口小学校3年)	梁瀬 琴美 (金山町立明安小学校4年)
江口 千夏 (戸沢村立神田小学校5年)	姉崎 瑞希 (真室川町立小又小学校6年)
北沢 亜由美 (山形市立第二中学校3年)	

優秀賞 14点

たかはし たかし (真室川町立釜淵小学校1年)	古瀬 和華 (新庄市立新庄小学校1年)
五十嵐 春香 (鮭川村立曲川小学校2年)	佐藤 洸平 (真室川町立平枝小学校2年)
黒坂 智里 (鮭川村立大豊小学校3年)	小嶋 貴也 (新庄市立萩野小学校3年)
小野 響稀 (戸沢村立神田小学校4年)	高橋 宏昌 (新庄市立日新小学校4年)
五十嵐 優花 (金山町立有屋小学校5年)	押切 恵 (新庄市立山屋小学校5年)
福本 佐和子 (大蔵村立折肘小学校6年)	小野 ちひろ (新庄市立山屋小学校6年)
佐藤 好 (大蔵村立沼台中学校2年)	菊地 由香利 (山形市立第二中学校3年)

優良賞 18点

さとう ちさと (真室川町立安楽城小学校1年)	たかはし かな (真室川町立平枝小学校1年)
さとう まお (真室川町立小又小学校1年)	たかはし りか (金山町立明安小学校2年)
いの上なおみち (鮭川村立大豊小学校2年)	都市 由希野 (新庄市立新庄小学校2年)
片見 彩子 (大蔵村立赤松小学校3年)	田邊 成美 (新庄市立新庄小学校3年)
伊藤 僚馬 (大蔵村立大蔵小学校3年)	阿部 永 (最上町立赤倉小学校4年)
山本 祐平 (舟形町立長沢小学校4年)	安喰 竜司 (鮭川村立鮭川小学校4年)
佐藤 祐一郎 (真室川町立小又小学校5年)	須藤 美咲 (大蔵村立沼台小学校5年)
岸 侑香 (金山町立金山小学校5年)	加藤 さほり (戸沢村立古口小学校6年)
佐藤 愛美 (真室川町立安楽城小学校6年)	菊本 美里 (金山町立明安小学校6年)

お見事！文部科学大臣賞

おく山あかねさん
(山辺町立鳥海小学校)

—— やっぱり宗族っていいナ～三行詩・写真コンクール ——

山形県から初めての入賞者ができました。おめでとうございます。

文部科学大臣賞

おく山 あかね

(ねちゃったおとうさん)

おとうさんの足をマッサージしたよ。

おとうさんは ねちゃったよ。

あかねのゆめを見てるのかな。

三行詩部門 佳作

川口 けんた (山辺町立鳥海小)
村形 昂洋 (天童市立荒谷小)
高橋 智子 (一般：遊佐町杉沢)

写真部門 佳作

高橋 浩幸 (一般：真室川町及位)

来年度も奮って応募されるよう期待しております。

栄えある表彰 ありがとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTA活動にご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られましたのでご紹介いたします。

優良PTA文部科学大臣表彰

山辺町立作谷沢小・中学校PTA
酒田市立黒森小学校PTA

PTA活動振興功労者文部科学大臣表彰

本多 信昭 (第16代県PTA歴代会長)
坂部 登 (第17代県PTA歴代会長)

日本PTA全国協議会長表彰

◇団体

余目町立第一小学校PTA
川西町立第二中学校PTA

◇個人

須田 仁美 (前県P連副会長)
黒金 道雄 (前県P連副会長)
安藤 眞一郎 (前県P連副会長)
二位 関賢一 (現県P連監事)

☆感謝状 (日本PTA創立55周年記念)

梅津 克彦 (山形市：楯山小)
高橋 正俊 (山形市：高橋中)
石澤 一夫 (天童東村山：中山中)
小山 義巳 (北村山：楯岡中)
大沼 藤一 (東置賜：大塚小)
阿部 良雄 (酒田市：酒田六中)
今 國幸 (西置賜：小国中)
阿部 浩悦 (最上：新庄中)
枝松 直樹 (上山市：上山南小)

東北PTA連絡協議会長表彰

☆感謝状

板垣 喜代志 (前県P連会長：山形市)

☆表彰状

◇個人

齋藤 和敏 (前県P連理事：天童東村山)
小山 義巳 (前県P連理事：北村山)
須貝 智 (前県P連理事：東置賜)
黒澤 哲人 (前県P連理事：西置賜)
中野 伸二 (前県P連理事：鶴岡市)
佐藤 恒行 (前県P連理事：東田川)
阿部 良雄 (前県P連理事：酒田市)
山田 弥生 (前県P連理事：山形市)

◇団体

村山市立大倉小学校PTA
金山町立中田小学校PTA
飯豊町立第二小学校PTA
朝日村立朝日小学校PTA

優良PTA県教育委員会表彰

山辺町立作谷沢小・中学校PTA
東根市立長瀬小学校PTA
山形市立蔵王第一中学校PTA
寒河江市立南部小学校PTA
新庄市立昭和小学校父母と教師の会
川西町立吉島小学校PTA
小国町立小玉川小・中学校PTA
酒田市立第二中学校PTA
酒田市立黒森小学校PTA

県PTA連合会長表彰

☆感謝状

板垣 喜代志 (前県P連会長：山形)
須田 仁美 (前県P連副会長：上山)
黒金 道雄 (前県P連副会長：米沢)
安藤 眞一郎 (前県P連副会長：西村山)
齋藤 和敏 (前県P連理事：天童東村山)
小山 義巳 (前県P連理事：北村山)
須貝 智 (前県P連理事：東置賜)
黒澤 哲人 (前県P連理事：西置賜)
中野 伸二 (前県P連理事：鶴岡市)
佐藤 恒行 (前県P連理事：東田川)
阿部 良雄 (前県P連理事：酒田市)
後藤 一喜 (前県P連理事：飽海)
秋葉 仁志 (前県P連理事：教職員代表)
鈴木 隆重 (前県P連理事：教職員代表)
山田 弥生 (前県P連理事：山形市)
森 富喜子 (前県P連理事：最上)
大石 章夫 (前県P連監事：天童東村山)
廣谷 春樹 (前県P連監事：山形市)

☆表彰状

長谷川 司 (前山形市P連)
梅津 克彦 (前山形市P連)
野口 今次郎 (前山形市P連)
沼沢 善右工門 (前山形市P連)
須藤 正朗 (前山形市P連)
長瀬 淳子 (前天童東村山P連)
片桐 秀一 (前西村山P連)
星川 博 (前北村山P連)
阿部 浩悦 (前最上P連)
石山 竹美 (前最上P連)
伊藤 英一 (前最上P連)
大友 直秀 (前東置賜P連)
伊藤 通芳 (前西置賜P連)
本間 寛 (前西田川P連)
本間 秀志 (前西田川P連)
佐藤 修 (前酒田市P連)

PTA安全互助会より

TEL 423-431-0905

子どもの安全を守り

PTA活動を支援する

山形県PTA安全互助会

☆ PTA安全互助会では、こんな補償をしています。

傷害事故の見舞金の給付手続きは、PTA安全互助会へ。

管理者賠償責任保険補償の給付手続きは、共済火災海上保険株式会社へ。

児童・生徒

学校管理下外(登下校時の事故も含む)及びPTA主催・共催行事に参加中の傷害事故と学校管理下外の賠償補償が該当します。

PTA会員

PTA主催・共催行事に参加中の傷害事故とPTA主催行事中の管理者賠償補償が該当します。

加入教職員

勤務先の傷害事故(通勤途上の事故も含む)とPTA主催行事中の管理者賠償補償が該当します。

加入状況

県内の学校数	482校	加入校	436校	加入率	90.46%
100%加入郡市町	山形、上山、天童・東村山、西村山、北村山、最上、西沢陽、西田川、鶴岡				

安全互助会の主な事業

- ① 傷害見舞金の給付事務及び管理者賠償責任保険補償(共済火災海上保険株式会社との契約等事務)
 - ・ 周知、大事故が増えています。事故には十分気をつけましょう。
- ② 補助事業(活動補助費の助成)
 - ・ 山形県PTA連合会への助成
 - ・ 各市区PTA連合会(協議会)への助成
- ③ 研修大会への補助
 - ・ 山形県PTA連合会研修大会への補助
 - ・ 東北ブロック研究大会(山形県地区)への補助
 - ・ 児童・生徒安全がスター事業の支援



Q & A

- ① PTA行事に親父様が副の代理で参加しましたが、帰省をしましてしまいました。傷害見舞金は出るのでしょうか?
- ② PTA行事への会員(保護者)の代理として認められる場合は、会員から委任され、児童・生徒と親交を共にしている親父様、及び成人している親父様・兄・姉であること、但し代理人が同一事故で受傷した場合は、1家庭1名のみでの傷害見舞金支給対象になります。
- ③ 小学校6年の3月にスキー中転倒し骨折をして、完治するのは中学校に入学後になる見込み。この場合は、請求は小学校・中学校のどちらの学校から提出すればよいのでしょうか?
- ④ 事故発生時と完治時の学校が違う場合は、事故発生時の在籍校で請求して頂きます。見舞金の振り込み通知書も事故発生時の在籍校へ送付いたします。他府に転校した時や高等学校等に転校した場合は上記と全く同じであります。

- ⑤ スポーツセンターでサッカーを練習中、太陽光より、西下・夕・朝を日焼けをし、皮膚炎になりましたが傷害見舞金は出るのでしょうか?
- ⑥ 急遽的に欠ける校長火傷と解職されますので傷害見舞金は支払われませんか。(電気アンカ等による火傷も見舞金の対象外です)
- ⑦ A校の職員が、休日に自分の子どもの中学校で行われたPTA行事(フットボール)に参加中怪傷を負ってしまった。この事故の傷害見舞金はA校とB校から請求できるのでしょうか?
- ⑧ A校とB校に会費を支払ってれば傷害見舞金支給対象になります。但し、A校から活動費外の傷害見舞金の請求となります。B校からはPTA行事中の傷害見舞金の請求となりますので、それぞれの用紙を使って請求して下さい。



日中友好少年少女の翼に参加して

中国訪問を振り返って

上市市立南中学校
三年 佐藤 令菜

私は今回の日中友好「少年少女の翼」に参加させていただき、いろいろな体験を通して、たくさんのお話を学びました。特に四日目の北京師範大学第二附属中学の人との交流は心に強く残っています。

四日目、最初は同じ年齢の中国人の人はどんな人なんだろ?という期待とちゃんと話ができるかなという不安が混り合っていました。そして交流が始まりました。参加者の一人一人に中学校の生徒が付き一緒に授業を受けたり、昼食を取ったりしました。私には「ラン」という名前の女の子が付きまわりました。外見上は特に目立って日本人と違う所がありませんでした。しかし私は緊張してしまい、何を話していいかわからず困っていました。その時、ランちゃんは笑顔で私に話しかけてくれました。少しだけ緊張がほぐれ、私も片言の英語でしたが、自己紹介をすることができました。授業の前に

はプレゼント交換もし、私が持っていた山形の御殿まりをプレゼントすると結構喜んでくれていた様子でした。その後の授業や昼食の時もジェスチャー付きの英語で会話することができました。また、日本語を話せる中国の生徒もいて、とても驚きました。昼休みには、学校の中の図書館に案内してもらいました。そこには「源氏物語」などの本もありました。他にも、ランちゃんは日本でも人気のあるアニメを知っていることにびっくりしました。最後には、お互いに住所などを教え合えるくらい仲よくなることができました。

国際人への第一歩
上市市立宮川中学校
三年 尾形 晴之

今回の旅の中の最大の意味それは、一緒に行った仲間たち中国の人との「出会い」だったと思う。特に、中国の人たちには言葉が伝じない、同級生なのに英語のレベルも違いすぎる。そんな中での交流。すっかり動揺し、落ちこんでしまった僕に笑顔で何度も声をかけてくれる姿。自分のことや、学校、中国のことを一生懸命に伝えようとする姿。いろんな姿から自国に対する誇りがとても伝わってきた。自分の考えをしっかりと持ち、誰とでも積極的にコミュニケーションをとろうとする姿に自分の内面の弱さを思い知らされ、一人間としての世界観のあ

まりの小ささを考えさせられました。突然、僕の心の中に「国は違えども、目の前にいるのは日本人の顔とそっくりの人ではないか、文化を同じくする仲間じゃないか。このままでは終わりがけない。」という思いがこみ上げてきた。その瞬間、伝えたいことがたくさん出てくるのを感じた。英会話とも言えない簡単な英語が楽しくて仕方なくなっている自分がいることに気づいた。

この「出会い」を通して僕の中で「何か」が確実に変わり始めている。見ためだけではない、人間としての内面を大切にしていこう、という自分に変わってきた。あの中国の中学生に負けたくない、同じだけの成長を上げていきたい。国のこと、文化のこと、国際交流について、いろいろな面から深く考え、自分の考えをしっかりと持てる人間になりたい。自分の人間性をみがいて、真の国際人になっていければと思う。

文部科学大臣表彰に輝く

県PTA歴代会長 **本多信昭氏**
坂部登氏

～PTA活動振興功労者～

PTA創立55周年に当たり、PTA活動の振興に顕著な功績のあったおふたりに、文部科学大臣表彰が授与されました。誠にめでたうございます。

文部科学大臣賞を受賞して

十六代会長 **本多 信昭**



「山形方式」なる運営で、全国のPTA会員に大きな

感動を与え、大成功裡に終了した「第四十一回日本PTA全国研究大会山形大会」の翌年の平成六年に御推挙をいただき、県PTA連合会長に就任させて頂きました。全国大会の運営でまとまった組織を、さらに強固にするには、どうしたらよいかを考え、二つの方針を立てました。一つは、それまでに保険会社に委託していた児童安全会の自主運営であり、もう一つは、母親委員会の設置・拡充でありました。

様々な意見を集約し役員の方々のご協力のもと取り組みました。以来、十年、現在のPTA活動、とりわけ母親委員会の活躍を見聞するにつけ、微力ながらもPTA組織の発展にお役にたてたものと、誇りに思うと同時に改めて当時の役員の皆様のご支援・ご鞭撻に心より感謝を申し上げる次第です。

いろいろな思い出を胸に

十七代会長 **坂部 登**



長男が小学校から入学して、平成元年、

末娘がまだ中学一年なので、まだPTA活動継続中ではありますが、この度の文部科学大臣表彰は、ひとつの節目として、厳粛で大変感動的な場面でした。心から感謝を申し上げます。今思えば、一年の学年会長の指名は、お世話になった地域への恩返しに近い引き受けましたが、その後、まさか県のPTA会長や日本PTAの役員を務めるなど夢にも思いませんでした。このようないろいろな役割を受け大変多くの事を学ぶ事ができました。この度の表彰は、十四年間のPTA活動を通して出会った多くの仲間を代表していただいたものと思っています。これからも、地域の皆様と一緒に、地域に住む子どもたちを明るく楽しく見守って生きたいと思えます。本当にありがとうございます。

平成15年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員名

役職	氏名	所属地区PTA	所属PTA	役職	氏名	所属地区PTA	所属PTA
会長	逸見 良昭	山形市PTA連合会	山形八小	理事	菅原 久継	西田川郡PTA連合会	温海中
副会長	遠藤 正明	山形市PTA連合会	山寺小中	"	荒生 慎次	飽海郡PTA連合会	大沢小
"	五十嵐 彰	米沢市PTA連合会	米沢三中	"	阿部 忠彦	県小学校教職員代表	山形南小
"	佐藤 勝彦	酒田市PTA連合会	宮野浦小	"	鈴木 登	県中学校教職員代表	米沢二中
"	佐藤 輝夫	北村山PTA連合会	楯岡中	"	佐藤 静子	山形市PTA連合会	山形五中
理事	斎藤 正裕	上市市PTA連合協議会	上山北中	"	松倉 慶子	北村山PTA連合会	楯岡中
"	佐東 幸治	天童東村山地区PTA連合会	豊田小	監事	二位 関賢一	山形市PTA連合会	山形三中
"	熊坂 恵一	西村山PTA連合会	陵南中	"	渡辺 敏行	西村山PTA連合会	陵東中
"	茅野 博	最上地区PTA協議会	新庄小	"	志田 祐二	山形市PTA連合会	山形西小
"	吉田 良司	東置賜地区PTA連合会	川西一中	事務局長	佐藤 恂一	山形県PTA連合会	
"	間宮 尚江	西置賜地区PTA連絡協議会	小国小	事務局員	高橋 邦孝	"	
"	今野 安治	鶴岡市PTA連合会	鶴岡二中	"	佐藤 洋子	"	
"	鶴巻 文臣	東田川郡PTA連合会	立川中	"	熊谷 慶子	"	



来年度の主な行事予定

- ◆ 日本PTA広報紙コンクール 応募締切 4月16日(金)まで
- ◆ 各・郡市より諸報告提出締切 6月3日(木)まで
- ◆ 第一回県PTA理事会議 6月15日(火)10:30～
- ◆ 平成十六年度県PTA総会 6月23日(水)13:30～
- ◆ 日P全国研究大会大雪圏大会 8月27日(金)～28日(土)
- ◆ 東北研究大会むつ大会 9月11日(土)～12日(日)
- ◆ 第五十六回県PTA研修大会 酒田・飽海大会 10月16日(土)酒田市
- ◆ 県教委と高校P連との合同教育懇談会 11月17日(水)予定

あしがき

不審者による声かけ事案や被害が多発した年でした。かけがえのない子どもの命を守るために、単位PTAの具体的取り組みと地域で守り育てる気運の醸成が求められています。(J・S)